小林沙羅（ソプラノ） *Sara Kobayashi (Soprano)*

東京藝術大学及び同大学院修了。2010～15年ウィーンとローマにて研鑽を積む。2012年ソフィア国立歌劇場『ジャンニ・スキッキ』『愛の妙薬』で欧州デビュー。2007年千住明・松本隆『隅田川』、2013年三枝成彰『KAMIKAZE』、2015年及び2020年野田秀樹演出『フィガロの結婚』、2017年三枝成彰『狂おしき真夏の一日』、藤原歌劇団『カルメン』、2019年全国共同制作オペラ『ドン・ジョヴァンニ』、同2021年岡田利規演出『夕鶴』、池辺晋一郎『千姫』、2023年井上道義『降福からの道』、兵庫県立芸術文化センター『ドン・ジョヴァンニ』など話題作に続々出演。リサイタルも各地で行い2019年2月にはロンドンのウィグモアホールにてソロリサイタルを開催。英、独、仏、伊、日、5カ国の作品を歌唱、現地評で絶賛される。また、マーラー交響曲第4番、第8番、「嘆きの歌」、フォーレ「レクイエム」、ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』より「愛の死」等、ソリストとしても多くのオーケストラと共演。2019年サードアルバム「日本の詩（うた）」をリリース。2017年第27回出光音楽賞、2019年第20回ホテルオークラ賞受賞。日本声楽アカデミー会員。藤原歌劇団団員。大阪芸術大学准教授。

オフィシャル・ホームページ　https://sarakobayashi.com/

福間洸太朗（ピアノ） *Kotaro Fukuma (Piano)*

20歳でクリーヴランド国際コンクール日本人初の優勝およびショパン賞受賞。これまでにカーネギーホール、リンカーンセンター、サントリーホールなどでのリサイタルの他、クリーヴランド管、イスラエル・フィル、NHK交響楽団など著名オーケストラと多数共演。CDは多数録音しており、2023年にリリースの「幻想を求めて－スクリャービン＆ラフマニノフ」（ナクソス）は欧州のInternational Classical Music Awardsにノミネートされた。2024年9月、通算20作目のCD「ショパンの想い出」（ナクソス）を日欧同時発売。多彩なレパートリーと表現力、コンセプチュアルなプログラム、また5か国語を操り国内外で活躍中。第39回日本ショパン協会賞、2024年スペインのアルベニス・メダルを受賞。2024年、日本デビュー20周年を迎え、全国10ヵ所での記念リサイタルツアーを行い、各地で好評を博し、高い評価を得た。

オフィシャル・ホームページ　https://kotarofukuma.com/

【朗読】北村有起哉（俳優） *Yukiya Kitamura (Actor)*

1974年生まれ。東京出身。1998年に舞台『春のめざめ』（串田和美演出）と映画「カンゾー先生」（今村昌平監督）作品に出演しデビュー。舞台『CLEANSKINS / きれいな肌』（栗山民也演出）で朝日舞台芸術賞寺山修司賞を受賞。近年の出演作には、舞台「夜の女たち」（22）、映画「ヤクザと家族 THE Family」（21）、「すばらしき世界」（21）、「鬼平犯科帳 血闘」（24）、ドラマ「事件は、その周りで起きている」（22/NHK）、「たそがれ優作」（23/BSテレビ東京）、「完全無罪」（24/WOWOW）などがある。2024年後期の連続テレビ小説「おむすび」ではヒロインの父、米田聖人役として出演。現在放送中のドラマ「いつか、ヒーロー」（ABC）にも出演中。7月11日（金）からは主演映画「逆火」が公開予定。

歌と朗読でつづる愛の手紙

小林沙羅

ソプラノ・リサイタル

“愛を歌う”

ピアノ：福間洸太朗
朗　読：北村有起哉

2025年5月14日（水）午後7時開演
東京文化会館 小ホール

主催: ジャパン・アーツ

MESSAGE

本日はリサイタル「愛を歌う」においで下さり、
本当にありがとうございます。
ここまで一から企画して手作りしたリサイタルは
今まで無かったのではないかと思います。
準備はとても大変でしたが、その分それぞれの曲と深く向き合う事ができ、
このリサイタルの存在が私自身を演奏家として成長させてくれました。
そしてまた、リサイタルに駆けつけて下さる方、
応援して下さる方がいらっしゃる事のありがたさを、改めて感じております。
皆さんに聴いて頂きたい、楽しんで頂きたい、
内容の深いものをその良さがきちんと伝わる形でお届けしたい、
という思いが私を突き動かして来ました。
今日こうしてここにおいで下さった皆さまは、私にとって、とてもとても大切な方々です。
改めて心からのお礼を申し上げます。
今回のプログラムは、あえて作品一曲ずつの解説は載せず、
朗読と歌で紡ぐ流れの中で、その作品自体の音楽と歌詞から、
その良さを感じ取って頂ければと思います。
今回、朗読をお引き受け下さった北村有起哉さん、
ピアノを弾いて下さる福間洸太朗さん、
心強いお二人の共演者と共にリサイタルを開催できる事を
心から嬉しく思います。
私自身、今日この日の舞台をめいっぱい楽しませて頂きます。
皆さまにもお楽しみ頂けますように!!

小林 沙羅

PROGRAM

ロベルト・シューマン
「女の愛と生涯」Op.42より　1. 彼と出会ってから
「ミルテの花」Op.25より　24. 君はまるで花のよう
7. 睡蓮の花

クララ・シューマン
「愛の春」Op.37より　2. 彼は嵐と雨の中をやって来た

ロベルト・シューマン
「ミルテの花」Op.25より　9. ズライカの歌
「詩人の恋」Op.48より　8. もしも花たちが知ったら

クララ・シューマン
「愛の春」Op.37より　11. なぜ他人に尋ねようとするの?
4. 美しさゆえに愛するのなら

ロベルト・シューマン
「子どものための歌のアルバム」Op.79より　29. ミニヨン
「女の愛と生涯」Op.42より　4. 私の指にある指輪よ

ロベルト・シューマン
「リーダークライス」Op.39より　12. 春の夜
「女の愛と生涯」Op.42より　8. 今あなたは私に初めての悲しみを与えた

クララ・シューマン
「六つの歌」Op.13より　1. 僕は暗い夢の中で
2. 二人は愛し合っていた
3. 愛の魔法

ロベルト・シューマン
「ミルテの花」Op.25より　1. 献呈

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

＜独唱版世界初演＞

三枝成彰作曲
「愛の手紙～恋文」より　第3曲 伊藤野枝と大杉栄の往復書簡
第9曲 マリー・アントワネットとフェルセン伯爵の往復書簡

ロベルト・シューマンとクララ・シューマン

曲目解説・訳・台本 ： 小林沙羅

二人の事を知れば知るほど、クララがどれだけ偉大だったのかを知る事になります。ロベルトがこれだけたくさんの素晴らしい歌曲を生み出す事ができたのは、クララがいたからに他なりません。リストやブラームスなどの他の作曲家の作品にもクララがいたからこそできた素晴らしいものがたくさんあります。有名なピアニストであり、作曲家であり、8人の子を産んだ母であり、偉大な作曲家ロベルト・シューマンを支えた妻であるクララ。同じ音楽家として、母として、共感と尊敬がどこまでも深まります。

クララとロベルトは愛し合っていながら、クララの父の大反対に遭い、なかなか結婚ができませんでした。最終的には父に対する裁判を起こしてまで勝ち取った結婚。二人の喜びは計り知れません。二人の愛に満ちた結婚の年、1840年は「歌の年」とも呼ばれ、名作がたくさん作られました。今日演奏する作品の多くも、この「歌の年」に作曲されています。

また、クララも作曲を行っており、歌曲は30曲ほどあり、やはり多くが結婚直後に作曲されています。今回取り上げる「六つの歌」Op.13は、ロベルトの助けもあって出版された最初の歌曲集です。そして「愛の春」Op.37は、ロベルトと一緒に出した歌曲集で、全12曲のうち2.4.11曲目がクララの作品です。クララは作品ができるとクリスマスや誕生日にロベルトにプレゼントしており、まさに音楽によって愛を深めた二人なのだなと感じます。

ロベルトの歌曲集「ミルテの花」Op.25は二人の結婚の年、最愛の花嫁クララ・シューマンに捧げられました。愛と感謝に溢れた歌曲集です。今回は歌曲集「リーダークライス」Op.39 、歌曲集「詩人の恋」Op.48、歌曲集「子どものための歌のアルバム」Op.79からも一曲ずつ選びました。本当はどれも素晴らしい歌曲集ですのでもっと取り上げたかったのですが、それはまたの機会に。ロベルトもクララも、歌曲の詩の内容と自分たちの人生を重ね合わせ、深い理解と共感を持って作曲していたのでしょう。今回はあえて詩の内容に焦点を当てて作品を選びました。北村有起哉さんに二人の手紙を朗読して頂き、歌と朗読を通して「二人の愛と生涯」に触れる事ができれば、と思います。

※台本中の手紙の文章は、若林健吉著「シューマン～愛と苦悩の生涯」ふみくら書房より引用させて頂きました。

＜独唱版世界初演＞
「愛の手紙～恋文」より
伊藤野枝と大杉栄の往復書簡
マリー・アントワネットとフェルセン伯爵の往復書簡

三枝成彰 作曲　ナレーション原稿：倉田瑞穂

約1年を費やし渾身の力をもって書き上げた「愛の手紙～恋文」は、
川端康成やモーツァルト、ナポレオン等の世界の著名人が
恋人や妻に宛てたラブレターを歌詞にしました。
オリジナルは全9曲から成る男声合唱と管弦楽のための作品ですが、
本日は私が最も信頼する日本一のソプラノ歌手、
小林沙羅さんがソプラノ独唱で2曲を世界初演してくださいます。
彼女の持つ類稀な表現力で、どう歌っていただけるのか
楽しみに聴かせていただきます。

三枝 成彰

この作品は2023年、大友直人指揮、東京フィルハーモニー交響楽団、六本木男声合唱団ZIG-ZAGによって初演されました。今回は全9曲の中から2曲を歌わせて頂きます。今回の独唱版初演にあたり、三枝成彰さんが楽譜を独唱用に編曲し直して下さいました。本来大人数で何パートにも分かれて演奏されていた作品を一人で歌う事はかなりの大仕事になるとは思いますが、挑戦させて頂きます!ピアノのパートも、オーケストラの音を福間さんが一人で担います。歌曲でありながらオペラアリアのように壮大な作品ですので、その世界観を表現できましたら嬉しいです。

小林沙羅